

地域連携
ほっぽ
よりよい医療の始発駅

創刊号



より深く広く、力強い地域医療連携を目指して
『地域連携ぽっぽ』創刊！

創刊記念対談

これからの地域医療連携

院長 上田祐二／統括副院長 北川 良裕

薬剤部長 東海秀吉／看護部長兼副院長 岸本郁美

創刊によせて

スタッフからのメッセージ

リソースナースのご紹介

ぽっぽニュース

これから地域医療連携

創刊記念対談

JR大阪鉄道病院が今後地域のなかで果たしていくべき役割とはー。これまでの経緯、そしてこれからの活動への思いを、当誌立ち上げに携わったトップ4名が語り合いました。



岸本 郁美
看護部長兼副院長 東海 秀吉
薬剤部長 北川 良裕
統括副院長 上田 祐二
院長

阿倍野区から 登録医制度スタート

上田院長 (以下上田) 私は昨年の春、院長に着任し、新たに本年度から2020年度に至る5年間の病院の中期改革計画として、「地域連携の組織的な強化」と「病院機能の分化と最適化」のふたつを根幹の課題として決めました。この座談会のテーマにも関わる「地域連携の組織的な強化」については、阿倍野区・東住吉区・平野区の3区を中心とした大阪市南部地域において当院と近隣医療機関様との信頼関係をより強固なものとしたいと考えています。なかでも阿倍野区医師会様とは北川統括副院長既が理事を務めていることもあり、日頃から相談に乗っていただく関係で、他地域に先行してこの10月より連携登録医制度を発足させることができました。

北川統括副院長 (以下北川) 阿倍野区では当院が基幹病院であることから、医師会様から参加してほしいというご要望もあり、長く良好な関係を構築してきました。今後はこういった関係性を他地域にまで広げることを目標としています。

岸本看護部長兼副院長 (以下岸本) 当院の医師が積極的に活動するなか、それをいかにサポートして

いくかが看護部の課題です。病棟や外来の雰囲気をつくるのも看護師の役割。よい療養環境であることをしっかりと伝えられるよう、力をつけていきたいと考えています。

東海薬剤部長 (以下東海) 患者さんに来ていただく病院にするには、という課題において病診連携は肝になるという認識があったのですが、まずは内部の体制を整えることが第一でなかなか取り組みに至りませんでした。それがここに来て一気に形になってきましたね。ああ、今日も院長と副院長が地域に出向いて行ったなとか、各々がんばる姿が目に見えているのも、スタッフの士気を高めています。

上田 この夏からは地域医療機関様にご挨拶にまわる取り組みを重ねてきました。私たちが足を運び、現場を直接拝見する…いわゆる“顔の見える関係”的構築は、今後の連携においては何にも増して重要と考えています。

北川 モットーは「親切、丁寧、迅速」。これまで地域連携室ではきめ細かな対応を心がけてきましたが、今後はそれを広げて大きく育てていくことを目指しています。



より深く広く、力強い地域医療連携を目指して 『地域連携ぽっぽ』創刊！



地域の病院・診療所とJR大阪鉄道病院をむすぶ季刊情報誌、『地域連携ぽっぽ』が誕生しました。

地域医療に従事する方々に向けて当院の情報を発信する場として、また今後は登録医の先生方とのコミュニケーションの場としても、有効に機能させていきたいと考えています。

地域連携の充実とともに、愛される情報誌を目指しスタッフ一同、職種を越え力を合わせ取り組んでまいりますのでどうかよろしくお願ひいたします。

進化する 医療連携のかたち

東海 薬剤部は、地域連携の一つとして「薬薬連携」に力を入れて取り組んでいます。

昨年より、「薬薬連携推進の会」を毎月開催し、お互いが必要とする情報を探り合っていきました。今では院外の薬剤師さんと連携協力し、当院の医師との信頼関係を構築しつつあります。やはり、

基本はお互いが必要な情報を丁寧にやりとりし、さらにその情報を活用することだと思っています。一人でも多くの院外の薬剤師さんの協力を得ることはもちろん、多職種を巻き込んで面として拡げて行くことが、大阪鉄道病院

として地域に提供できる質の高い医療への仕組みづくりになると考えています。

北川 確かに連携といつてもさまざまなものがあります。私は「三次元連携」という言葉を使って、住んでいる人たちの視点という軸、診療活動

の軸、それからさらに発展した臨床研究の軸があって、そのなかに患者さんがいるというイメージを持っています。私は代謝内分泌疾患を専門としますが、まず糖尿病を扱う近隣の大きな病院と病病連携を行い、それがうまくいったので「病診連携の会」をいくつかつくってきました。こうして地域における患者さんのデータをアンケートや臨床研究でとっていくことで成果が見えてきますし、そこにいろんな領域の先生方を招いてお話しやすく、地域の疾患コンセンサスができあがります。そうしてひとつの疾患への共通理解ができると、病診連携もうまくまわるようになる。慢性疾患の患者さんに関しては、二人主治医という考え方で、

普段は開業医の先生に診ていただきつつ、そこでできない検査や治療などは病院機能を短期間で提供するというかたちで連携することも増えてきました。

上田 理想的ですね。同様の活動を全科で、さらに地域を広げていくことが目標です。

岸本 医療連携を進める基盤には、まず患者さんに選ばれる病院である必要だと思います。ちょうど100周年を迎えた昨年は、オープンホスピタルを行いましたが、地域の方々の評判もよく、大きな手応えを感じました。地域に向かって開かれた病院としての活動も積極的に実行し、いざ紹介という時に患者さんからも名前を出していくだけの病院になりたいと思っています。

当院ならではの魅力を生かした連携を

上田 当院の病院改革自体は今年で3年目に入っています。「地域連携」「診療の質向上」「活気ある職場づくり」の3つのテーマのもとで多職種の入った病院改革ワーキンググループがあります。さまざまな視点から病院をよくしていく方向で計画を立てて進めており、成果を感じています。

岸本 地域連携との関連でいえば、病院改革ワーキングでは入退院サポートを取り組んでいます。まずは阿倍野区で、患者さんを中心とした地域包括ケアで確固とした存在感を示すのが目標です。看護部としても、地域の

先生方と協力してチームに関わる全員が細心の注意をもって患者さんに安全な医療を提供する体制づくりに努めています。

上田 医師主導ではなく、医療に関わるチームの各々が、患者さんのために何をすべきかを把握し、積極的に動く

理想的なチーム医療ができるところは当院の魅力のひとつですね。

岸本 このチームワークをそのまま在宅にも連動して、地域医療における多職種連携ができれば素晴らしいと思います。

東海 今では当院のどの職種の人間も、相談を持ちかけるとしんどくてもやってみると動いてくれるし、非常に仕事がやりやすくなっています。ただ、このようによい方向に変貌してきていることが、まだまだ情報として外に出せていないので、これからはもっと情報発信にも力を入れていかねばなりません。ホームページの刷新もしたいし、今回新たに立ち上げた当院はいわば私たちの「宣言書」として、大事にしていきたいです。

北川 地域に愛される病院になるために、また地域医療機関様とのより確かな連携のために、何をすればよいか、そして何を発信していくのか。私たちだけでなく、地域の医療機関様とのおつきあいのなかからフィードバックしていくことも重要ですね。

上田 今後も私たちは、地域住民から真に必要とされる医療を提供できる中核病院の機能を力を合わせて整備してまいります。地域の医療機関のみなさまにおかれましては、ますますのご指導ご協力をお願い申し上げたいと思います。

ご存知のように厚生労働省は、地域包括ケアの名の下に、地域医療機関の機能分化と連携を推進しています。しかし地域共生医療機関を目指す当院としては、これに100%追従するのではなく、現在そして将来の地域の医療需要に応じて当院が担うべき役割を的確に見極めて推進していく所存です。現在、急性期病棟6病棟280床以外に回復期リハビリテーション病棟1棟40床を有していますが、今後も急性期病院として整備、発展していくことを希望します。当院の急激な変遷として、緩和ケア病棟を、来年秋の稼働開始を目標に年明けから病棟の改修、改築工事に着手する予定です。当院のような、がん医療を中心とした病院のひとつとして担う急性期病院が、緩和ケア病棟を併設することの意義は極めて大きいと考えます。これにより、急性期から終末期まで切れ目のないがん医療を地域住民に提供できる体制を構築していきたいと考えています。

中期改革計画もうひとつ課題
「病院機能の分化と最適化」から



院長
VISION



スタッフからのメッセージ

患者さんを住み慣れた地域へ

副看護部長兼地域医療連携室副室長 薩山 潤子

今回のプロジェクトでは鉢々たる顔ぶれのなかでリーダーを仰せつかり、なんとか創刊にこぎつけることができて感慨もひとしおです。当院ならではの魅力をお伝えしていきたいと思っています。看護師として手前味噌ながらアピールさせていただくと、看護の手厚さは患者さんからも大変ご好評いただいている。今後は地域での役割として退院支援のカンファレンスを充実させるべく、取り組みを始めています。また、阿倍野区は大阪市でも女性人口の割合が一番多いので、今後は女性に特化した相談窓口などもつくっていけたらと考えています。ますます進化していく当院に、これからもご期待ください。



地域と病院のつなぎ役として

医療福祉相談室 吉田 有美子

相談員という立場で患者さんとお話しするなかで、「当院はとにかく居心地がよい」「転院したくない」などの言葉をよく頂戴するのは、非常に光栄なことです。しかしこれからの医療に求められるのは、住み慣れた地域で安心して日常生活を送っていたくこと。私たちの使命は、患者さんを院外へ心身ともに不安なくつなぐことです。患者さんはもちろん、介護に携わる方、そして開業医の先生方と丁寧にコミュニケーションを重ね、信頼を得て良好な関係を築くことで、役割が果たせるよう努めます。そのためにも、先生方が求められものをキャッチして、フィードバックすることを大切にしていきたいと思います。



登録医制度のいっそうの充実を

企画課課長 川端 隆史

開業医の先生とのより密なる連携をめざし、登録医制度を阿倍野区でスタートしました。地域に根ざす基幹病院として、また企業立の病院としても、社会貢献、地域との共生は大きなテーマとなります。エリアの患者さんに良質の医療を提供するという目的のもと、一丸となってより充実した体制をつくりあげていきたいと思っています。きめ細かなフォローを心がけ、開業医の先生方が困られた時の力添えを考えていますので、お気兼ねなくお声をおかけいただけたら幸いです。当誌においても、私たちの思いの一方的な発信だけではなく、お役立ていただける情報発信を目指してまいります。



心かよいあう医療のために

地域医療連携室副室長 杉澤 一嘉

紹介をお断りしない診療体制の構築を目指し、日々励んでいます。当院は、アットホームな雰囲気が大きな魅力のひとつです。また、私は病院食を担当していますが、そのおいしさも自負するところ。クックチルドや冷凍食品を使わない調理にこだわった家庭的な味に加え、行事食などの心遣いも患者さんに喜ばれています。こういった細やかな情報発信を含め、医師や医療スタッフの個性が伝わる、親しみのある情報誌をつくりたいと思います。さらに地域の先生方との交流を大切に、今後は誌面やホームページ上で登録医の先生を紹介させていただきたいとも考えていますので、よろしくお願ひいたします。



真摯な姿勢をそのまま伝えたい

経営管理室長 小澤 裕一

私はJR西日本に入社し24年、鉄道中心に勤務してまいりまして、昨年7月に当院に赴任しました。病院のことはまったくわからなかったのですが、当院の医療スタッフが使命感をもち仕事と向き合う姿を目の当たりにして、深い感銘をおぼえる日々です。今は病院経営の立場からその活動を支援していますが、地域連携はあらゆる意味でますます重要になっていくと認識しています。地域医療機関様とより良好な関係を確立し、「紹介したい病院」としてご愛顧いただくには、当院のさらなる充実が不可欠です。当誌においても、当院の現状、将来めざす姿をありのまま発信していきたいと思います。



総力を結集しさらなる成長へ

総務課(医事)主査 千葉 晃義

今年2月に入職し、気さくでやさしいスタッフに恵まれた風通しのよい環境を実感しています。一方ではまだ整備の必要なところがありますが、むしろそれらも大きな伸びしろととらえています。諸所アピール不足で、発信しきれていない魅力がたくさんありますので、まずは目を向けていただく努力が必要です。地域医療連携においても、紹介状を有効に利用していただくことで患者さんにもベネフィットがあることなど、より多くの開業医の先生にしっかりとお伝えしていかねばと思っています。当院のスタッフなら、どんなご要望にも対応できる力を備えていると確信しますし、私もチャレンジを続けてまいります。



ぜひお見知り置きを!

よりよい医療提供を支えるリソースナースたち

リソースナースは、常に変化する医療現場の最前線で働く看護師たちを専門的知識や技能で支援する看護師のことです。当院では、専門看護師と認定看護師がそれぞれの専門領域で高度な知識や技術を発揮して活躍しています。今後、当誌ではそんなリソースナースの活動も紹介してまいりますので、どうぞご期待ください。



慢性疾患看護専門看護師

高濱 明香

慢性疾患の患者さんの療養生活、教育の相談や看護スタッフへの研修などを行います。教育や指導でお困りのことがございましたら、どうぞお気軽にお声がけください。

摂食・嚥下障害看護認定看護師

菊地 香織

他職種と協働し嚥下回診を行っています。「おいしく安全に食べる」を目標に、食事形態の調整や嚥下訓練、口腔ケア、ご家族への指導などを個別に立案し介入しています。

慢性心不全看護認定看護師

高山 真実

患者さんが自分らしく地域で暮らせるよう、心不全手帳を用いた心不全指導や患者さんに合った療養生活支援、専門的なスタッフ教育など、質の高い看護の提供に努めています。

がん化学療法看護認定看護師

中村 千絵

抗がん剤治療の副作用対策では、個々に応じたケアの提案を行います。患者さんやご家族が抱える不安や悩みを解消できるよう、相談しやすい環境作りを心がけています。

がん化学療法看護認定看護師

中島 いづみ

がん化学療法を受ける患者さんに対して、他職種と協働しつつ、根拠に基づいた抗がん剤知識をもとに安全で効果的ながん化学療法看護を実践しています。

緩和ケア認定看護師

山田 千幸

がん患者さんとご家族が抱える身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな苦痛を緩和しQOL向上を目指し他職種チームで活動しています。がん相談や緩和ケア外来も行っています。

感染管理認定看護師

坂本 麗花

感染症を抜けない、耐性菌を作らないために活動しています。感染対策チームで感染症治療にも取り組んでいます。感染対策についてご相談がありましたらご連絡ください。

認知症看護認定看護師

森田 由紀子

認知症患者さんはせん妄や行動心理症状を起こすことがあります。入院中は専門チームがラウンドし、客観的な視点で要因を探り、薬剤の調整や適切なケアにつなげています。

がん性疼痛看護認定看護師

三木 章乃

患者さんの体験している苦痛を全人的にアセスメントし、疼痛緩和のためのケアを提供しています。鎮痛剤使用に対する不安軽減のための情報提供やアドバイスも行います。

皮膚・排泄ケア認定看護師

柿元 奈緒子

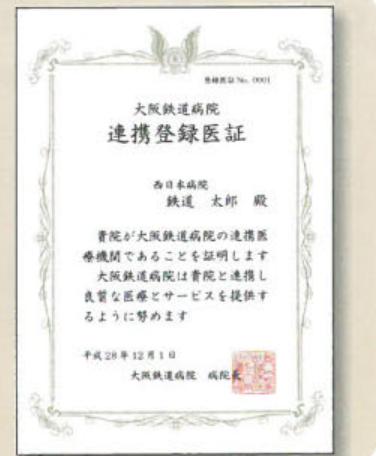
<育休中・来春から復帰予定> 梅毒管理者として専従で活動していますが、皮膚・排泄ケア全般に関わっています。外来では医師の指示のもとストーマ外来や自己導尿指導、梅毒予防相談などを行います。

登録医制度、ついにスタート！

平成28年10月1日、阿倍野区医師会のご承諾を得て念願の「連携登録医制度」をスタートしました。平成28年11月15日現在、既に87件の診療所・医院・クリニックの先生方より連携登録医の手を挙げていただいております。

連携登録医の先生方からご紹介いただいた患者さんは、可能な限り受け入れ対応させていただきます。ただし診療機能に制約がございます旨は、ご理解いただけたら幸いです。また、治療を終えた患者さんはご紹介元へお戻りいただく逆紹介制度をさらに促進してまいります。

今後は対象地域をさらに拡大し、近隣の医療機関の皆さまとの密なる連携を図ってまいりますので、ご理解ご協力のほどお願ひいたします。



“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

【基本方針】

安全を積み重ね、患者さんから信頼される医療に努めます。
地域中核病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。
急性期医療から回復期医療まで、良質な医療の提供に努めます。

JR 大阪鉄道病院

Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1丁目2-22

TEL.06-6628-2221 FAX.06-6628-4707

ホームページ <http://www.jrosakahosp.jp>

受付時間／午前8時30分～午前11時00分

診療開始／午前9時00分～

休診日／土日祝・年末年始（12月30日～1月3日）

